

## R2(2020)年度活動

## 機能性食品研究会

### 活動基本方針:

- (1) 「食」が健康に良いということを自然にかつ効果的にアピールできる仕組み造りに向けた環境の基盤整備の推進
- (2) 国民の健康労働寿命の延伸と機能性食品産業振興への貢献
- (3) 会員の情報収集と意見交換の円滑化のため産官学で機能性食品を議論する場の提供 (講演会、セミナー等)
- (4) 機能性表示食品制度の見直しに向けた提言・要望およびパブコメ等への意見提出をJABEX等関係機関とも連携し実施

### 2020年度(令和2年度)活動:

国民の健康寿命の延伸と産業振興への貢献を目指し、バイオ戦略2019に紐づく活動を推進し、勉強会や会員相互の意見交換などを通じて「食品」に関わる法律・制度の見直しに向けた要望と提言を纏め、JABEX等と連携して関係機関へ提出する。機能性食品産業において、一企業では解決を図ることが難しく、業界一丸となって議論すべき中期テーマとなりうる課題を研究会で議論し、食品産業のイノベーションと新ビジネスの創造に繋げる。

### 研究会・講演会(JBA会員、他公開):

研究会の議論を深める講演会を年5回実施 「①6月24日、②8月27日、③11月5日、④21年1月20日、⑤21年3月23日」

### 連携:

- (1) 健康食品産業協議会、日本健康栄養食品協会、産総研、農研機構、日本食品免疫学会
- (2) JABEX日本バイオ産業人会議
- (3) JSPS「未病マーカー」委員会、アカデミアと産業界のマッチング(連携/融合)
- (4) 関西拠点の関連団体(近畿バイオ協会、近畿科学協会、等)との連携の検討

# 令和2(2020)年度機能性食品研究会・講演会 第1回

## 第1回 2020年6月24日(水) テーマ:「食の制度を知る」

「“保健機能食品制度を中心とした健康食品に関する行政動向”」  
～直近のトピックスと今後を考える～

株式会社ウェルネスニュースグループ 木村祐作 編集長



消費者庁は4月1日、機能性表示食品「事後チェック指針」の運用を開始。

6月1日には、業界の第三者機関「エビデンスレビュー委員会」の運用が開始。

これらは機能性表示食品の公正競争規約策定へ向けた布石。

「事後チェック指針」が示す届出時の留意点は？ 業界の第三者機関の役割と位置づけは？

今後の課題として、免疫機能表示の検討、栄養機能食品制度の見直しなどが控える。

最新の行政動向を踏まえながら、各課題の行方を占う。

このほか、新型コロナウイルス感染拡大のなか、取り締まり対象となった広告・表示をめぐる問題を解説。

第2回 2020年8月27日(木) テーマ: 「“薬機法を知る”」

「～わが国の食品の保健機能表示の変遷と課題～」

前鹿児島県大隅加工技術研究センター所長 岩元 睦氏



わが国で食品機能性が政策課題となったのは、昭和59～61年の文部省「食品機能の系統的解析と展開」（代表者：藤巻正生、東大農教授）の成果として提唱された「食品の3次機能（体調調節機能）」を活用した機能性食品を、当時の厚生省が厚生白書（昭和63年版）で紹介したのが最初である。厚生省は高齢化社会に向かうわが国で、機能性食品の利用を膨張する医療費の抑制の手段とする意図があった。結果的に平成3年に創設された「特定保健用食品」制度は国際的にも話題となった。食品機能に関する研究は、平成における食品科学の重点分野の一つとして多くの成果を上げ世界をリードしてきた。

しかし、目標であった政策的展開は米国をはじめ他国に比して低調な状態が続いてきた。平成13年に強調表示が可能な保健機能食品制度を創設し、その中で特定保健用食品及び栄養機能食品を位置付け、平成27年には機能性表示食品が加わった。米国のダイエタリーサプリメントの表示制度を参考にしたはずの機能性表示食品でありながら、米国は平成19年に続き、わが国の健康食品制度は国際的にベストプラクティスでないと指摘された。

そうした状況が生まれる原因を、我国の食品と医薬品の法的解釈が国際的に異質であるといった点から考察する。

# 令和2(2020)年度機能性食品研究会・講演会 第3回

第3回 2020年11月5日

令和二年度第3回JBA機能性食品研究会 講演会

## “食の教育を知る”

日時：2020年11月5日(木) 15:50～17:30

会場：(一財)バイオインダストリー協会

主催：(一財)バイオインダストリー協会 機能性食品研究会

「機能性食品研究会」では、国民の健康労働寿命の延伸と機能性食品産業の振興へ貢献するべく活動を行っております。令和2年度活動方針として、国民の健康寿命の延伸と産業振興への貢献を目指し、バイオ戦略に紐づく活動を推進し、勉強会や会員相互の意見交換などを通じて「食品」に関わる法律・制度の見直しに向けた要望と提言を纏め、JABEX等と連携して関係機関へ提出することを掲げております。お客様に食の良さを判り易く伝えるための制度改訂要望の議論を行っているなか、「食の教育」とりわけ、医療従事者（栄養士、管理栄養士、保健師、看護師、など）への食の教育の現状と、これから先の目指す方向について勉強をしたいとの声が上がりました。そこで第3回研究会・講演会は「食の教育を知る」をテーマに、Zoomライブセミナーを開催することに致しました。JBA会員の皆様にご参加いただきたくご案内いたします。

15:50～15:55 趣旨説明

15:55～17:10 **食の教育を知る**  
甲南女子大学 医療栄養学部 教授  
日本栄養士会 理事  
**木戸 康博氏**

「医療従事者(栄養士、管理栄養士、保健師、看護師、など)への食の教育の現状と、これから先の目指す方向について」という視点でご講演いただく。

17:10～17:30 質疑応答



# 令和2(2020)年度機能性食品研究会・講演会 第4回

第4回 2021年1月20日

## 1. はじめに

宮澤陽夫 先生 (JBA機能性食品研究会会長)



## 2. 講演：テーマ “次世代の機能性食品を知る”

～SIP2プロジェクトで見えてきた軽度不調評価システムに基づくNEXT機能性食品の開発～

農研機構食品研究部門 ヘルスケア創出研究統括監 山本（前田）万里氏

新型コロナウイルスの爆発的な流行により生活様式が急変し内食の需要が急増した。在宅勤務の急増など今までとは異なった環境下では、ストレスの増加、睡眠の不調、生活習慣病の増加などが懸念されており、健康を維持増進する食品の果たす役割が重要性を増している。

今までは生活習慣病予防のための様々な機能性表示農産物が開発・上市されてきた。さらに新たな機能性食品を生み出すために、我々は新たな研究として、内閣府SIPにて、「健康寿命の延伸を図る「食」を通じた新たな健康システムの確立」に取り組んでおり、健常人1000名の睡眠、自律神経、遺伝子、腸内マイクロバイオーーム、食習慣、血液のデータから少し体調を崩した軽度不調を評価する指標の開発や軽度不調を改善する食品の開発を目指しているので紹介する。

## 第5回 2021年3月23日

### 海外の機能性食品の最新トレンド

株式会社グローバルニュートリショングループ  
代表取締役 武田 猛 (たけだ たけし)



New Nutrition Business (NNB) 誌では、毎年年末になると、翌年の食品、栄養、健康市場において 鍵となる10のトレンドを洞察しています。この10キートrendは、一時的、短期的な視点で流行を追うものではなく、今後数年、業界を牽引していく原動力となるであろうトレンドとして分析されています。

NNBは、キートrendとは、「成長のチャンスがある」トレンドであり、「各企業の売上増、利益に結び付くトレンド」と定義しています。この10キートrendの変遷を見る事で、ニュートリション市場のトレンド 変遷を知ることが出来ます。

10キートrendは、サイエンスからコンシューマーまで、あらゆる情報を分析し導き出された重要なトレンドで、企業がイノベーションプラン、戦略を立てる際に有効となる長期的視点に立った強力なトレンドに注目したものです。

本セミナーでは、「売れるトレンド」先取りし、自社商品に取り入れる方法についてお話をさせていただきます。